

全国の商店街を元気に

人気ホットゲーム「人生ゲーム」のリアル版として、出雲市で2013年から始まったイベント「まあそび人生ゲーム」が全国に広がり始めている。商店街を舞台に、ルーレットの出た目に従って店を巡り、専用の機器通貨を店でやり取りして、ゴール時の総額を競う。今年初めて山形県や福井県でも実施され、普及を目指すNPO法人「出雲まちあそび研究所」(出雲市平田町)は、発祥の地・出雲で全国大会を開催する夢を描いている。【山田英之】

追跡

まちあそび人生ゲーム



- ④まちあそび人生ゲームの普及を目指す高橋さん（右）と田中さん＝出雲市平田町のNPO法人出雲まちあそび研究所で
- ⑤人生ゲームのリアル版を楽しむ子どもたち＝出雲市の神門通りで



今年は初めて県外開催実現
ゲームを通じて来場者が店や店主を知り、店主とのコミュニケーションが生まれ、商品購入にもつなげる。店ごとに試食や割引券を用意、優勝すると地元の特産品がもらえるなど地元の特産品がもらえると地元の特産品がもらえることになる。これまでに平田本町商店街で5回、出雲大社前の神門通りで2回開いた。昨年9月には神門通りに2日間で、過去最高の約3800人が参加した。昨年8月、NPO法人を設立した。

今年は初めて県外開催実現
今年は初の県外開催が実現した。新庄南本町商店街（山形県新庄市）で2回、はまかぜ通り商店街（福井県小浜市）で1回開かれた。いずれも各店の商店街が主催し、人生ゲームの発売元・タカラトミー（東京都）とNPOが協力した。この他にも、開催を計画する県外の地域が複数ある。
各地から出雲への観察や講演依頼も多く、NP

の効果やノウハウを講演。「一過性のイベントにしないで、日ごろの購買活動とゲームの専用通貨をつなげることも考えている。各地に開催が広がり、いつの日か出雲で全国大会をやりたい」と夢を語る田中さんは、イベント1回の経済効果（飲食費や県外からの参加者の宿泊費など）を600万円と計算している。

NPO副理事長の高橋和也さんは、「まちあそび人生ゲームが全国に広がれば、発祥の地・出雲への観光客誘致にもつながる。参加者は家族連れが多く、お父さん、お母さんは人生ゲームで遊んだ世代。ブランド力があり、何でもデジタルの時代にアナログの良さがある」と感じている。

人生ゲーム